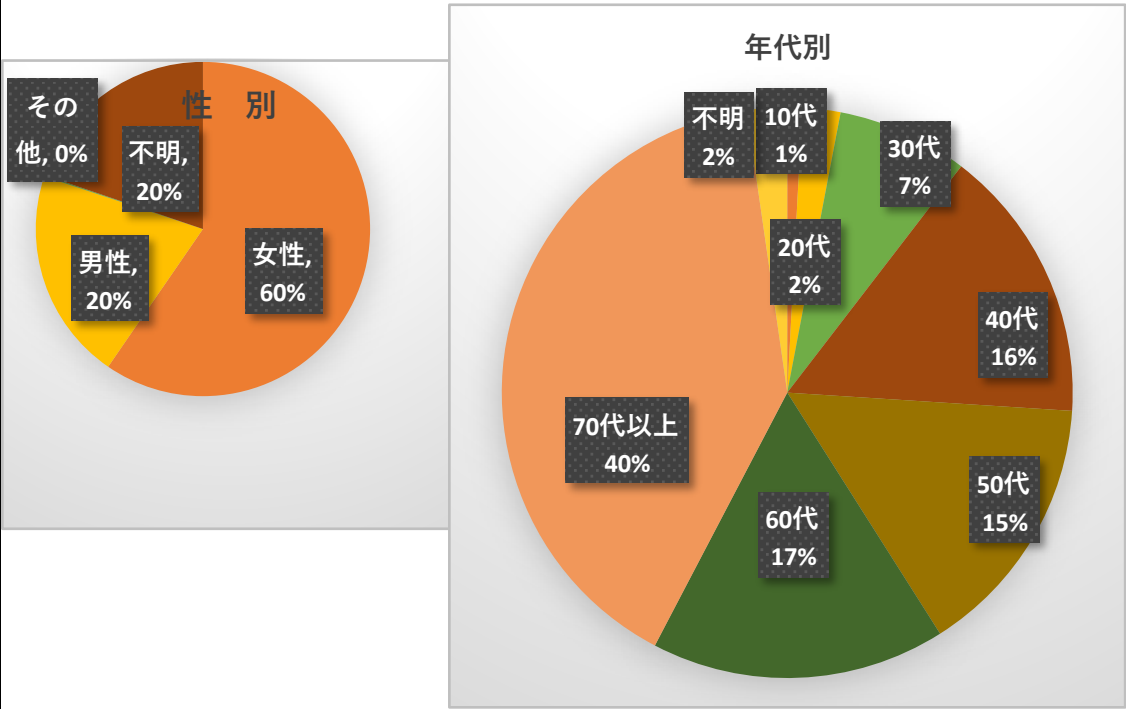
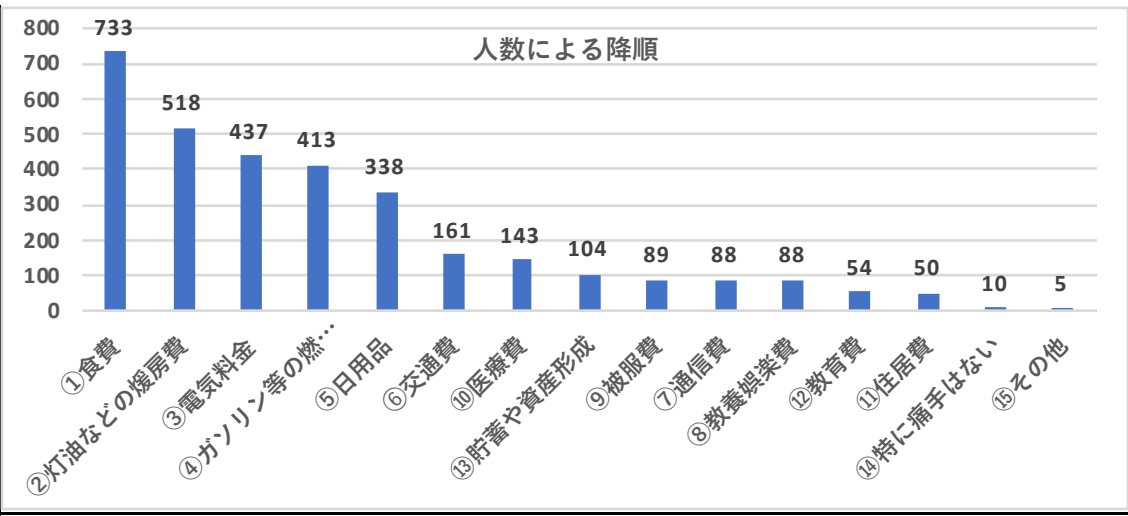
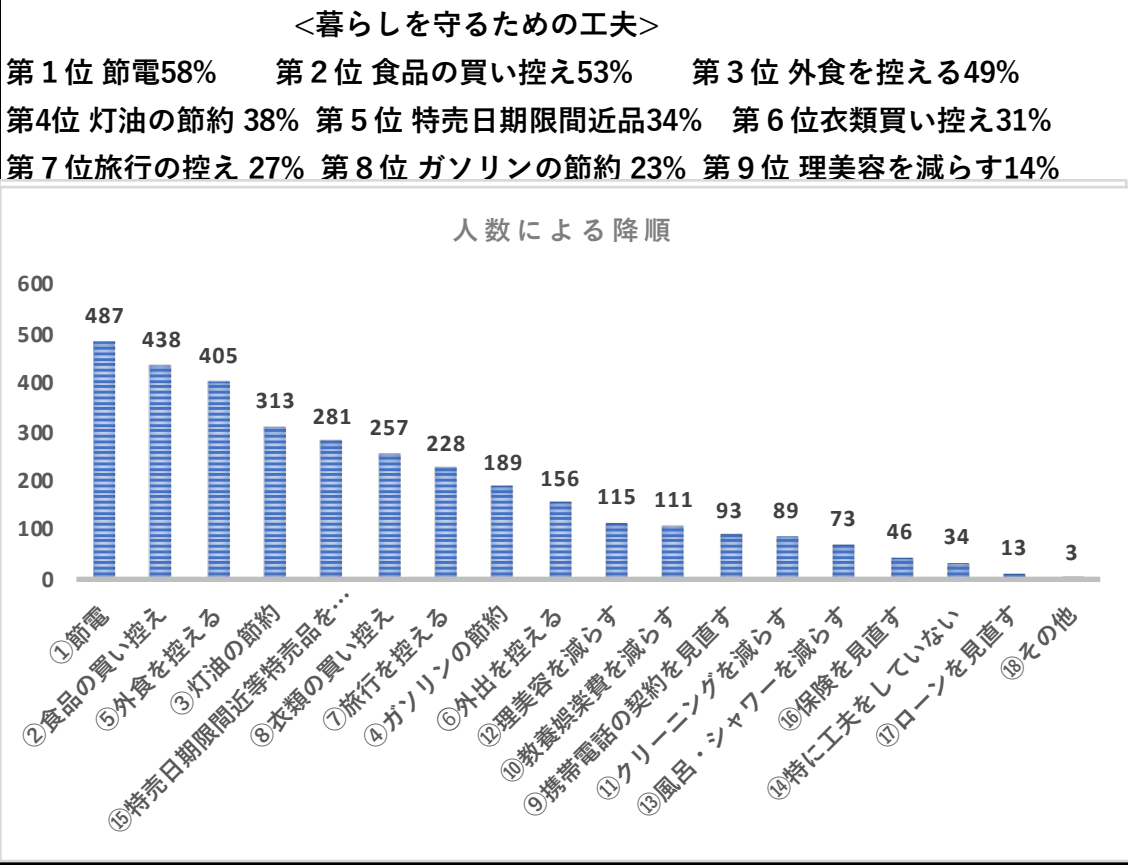


性別	女性	497
	男性	171
	その他	1
	記入のない場合は不明	165
年齢	10代	7
	20代	18
	30代	62
	40代	130
	50代	125
	60代	139
	70代以上	334
	記入のない場合は不明	19
1. 物価高騰で家計に	①かなりの影響を受けている	504
	受けている影響をど②多少の影響を受けている	298
	ように感じているか③特に感じていない	17
2. 家計への傷み具合	①限界を超えた	111
	について②限界を超えようとしている	227
	③やがて限界を超える	323
	④もう少しだけ余裕がある	135
3. 長期にわたる値上げ	①非常に感じる	446
	ラッシュにこれからの②感じている	274
	暮らし及び社会へ不安を③なんとなく感じている	97
	感じているか？④感じていない	5
4. 物価高騰の痛手は、	①食費	733
	家計の特にどの分野②灯油などの暖房費	518
	で響いていますか？③電気料金	437
	④ガソリン等の燃料費	413
	⑤日用品	338

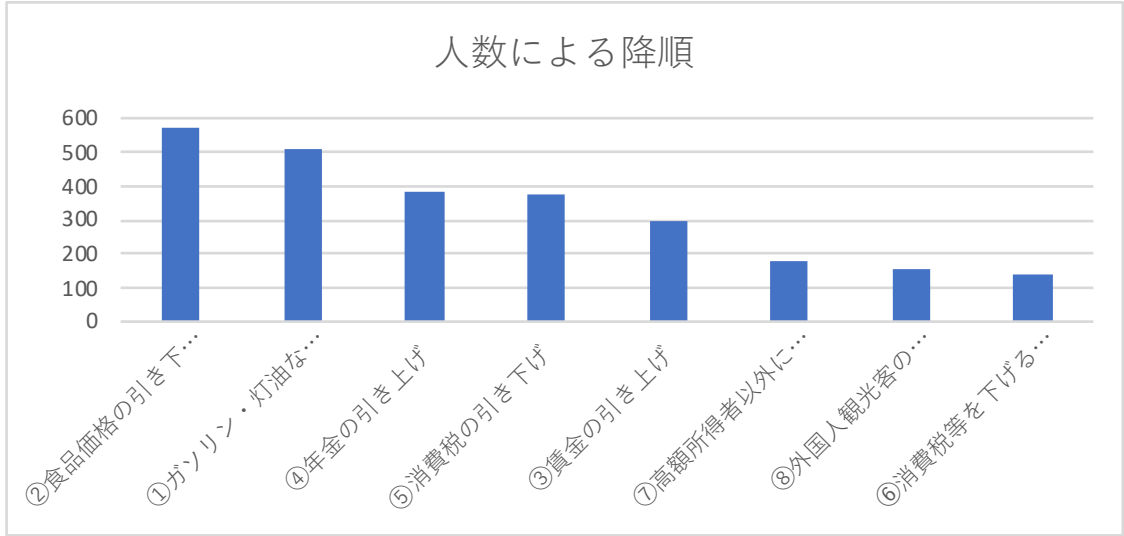


2. 家計への傷み具合	①限界を超えた	111	この物価高騰を家計に96%の方が影響を受けていると感じ、特にかなりの影響を60%の方が、受けていると感じている。 限界を超えた方は、13%であり、限界の境界線にいる方が67%である。 もう少しだけ余裕がある方が16%
	について②限界を超えようとしている	227	
	③やがて限界を超える	323	
	④もう少しだけ余裕がある	135	
3. 長期にわたる値上げ	①非常に感じる	446	98%の方が、現在の暮らし及び社会に対し不安を感じていて、そのうち非常に不安を感じている方53%であった。
	ラッシュにこれからの②感じている	274	
	暮らし及び社会へ不安を③なんとなく感じている	97	
	感じているか？④感じていない	5	
4. 物価高騰の痛手は、	①食費	733	<家計に響いている分野> 第1位 食費88%    第2位 灯油などの暖房費62%    第3位 電気料金52% 第4位 ガソリンなどの燃料費50%    第5位 日用品41% 第6位交通費19%    第7位医療費17%    第8位貯蓄・資産形成12%
	家計の特にどの分野②灯油などの暖房費	518	
	で響いていますか？③電気料金	437	
	④ガソリン等の燃料費	413	
	⑤日用品	338	

<div>⑥交通費</div> <div>⑦通信費</div> <div>⑧教養娯楽費</div> <div>⑨被服費</div> <div>⑩医療費</div> <div>⑪住居費</div> <div>⑫教育費</div> <div>⑬貯蓄や資産形成</div> <div>⑭特に痛手はない</div> <div>⑮その他</div>	<div>161</div> <div>88</div> <div>88</div> <div>89</div> <div>143</div> <div>50</div> <div>54</div> <div>104</div> <div>10</div> <div>5</div>	<div>人数による降順</div> 
<div>5. 物価高騰から暮らしを守るために工夫していることは</div> <div>①節電</div> <div>②食品の買い控え</div> <div>③灯油の節約</div> <div>④ガソリンの節約</div> <div>⑤外食を控える</div> <div>⑥外出を控える</div> <div>⑦旅行を控える</div> <div>⑧衣類の買い控え</div> <div>⑨携帯電話の契約を見直す</div> <div>⑩教養娯楽費を減らす</div> <div>⑪クリーニングを減らす</div> <div>⑫理美容を減らす</div> <div>⑬風呂・シャワーを減らす</div> <div>⑭特に工夫をしていない</div> <div>⑮特売日・期間近等特売品を利用する</div> <div>⑯保険を見直す</div> <div>⑰ローンを見直す</div> <div>⑱その他</div>	<div>487</div> <div>438</div> <div>313</div> <div>189</div> <div>405</div> <div>156</div> <div>228</div> <div>257</div> <div>93</div> <div>111</div> <div>89</div> <div>115</div> <div>73</div> <div>34</div> <div>281</div> <div>46</div> <div>13</div> <div>3</div>	<div>&lt;暮らしを守るための工夫&gt;</div> <div>第1位 節電58% 第2位 食品の買い控え53% 第3位 外食を控える49%</div> <div>第4位 灯油の節約 38% 第5位 特売日・期間近等特売品34% 第6位 衣類買い控え31%</div> <div>第7位 旅行の控え 27% 第8位 ガソリンの節約 23% 第9位 理美容を減らす14%</div> <div>人数による降順</div> 
<div>①ガソリン・灯油などへの補助制度の拡大</div> <div>②食品価格の引き下げ・据え置き</div>	<div>506</div> <div>571</div>	<div>&lt;暮らしへの支援として国や道にのぞむこと&gt;</div> <div>第1位 食品価格の引き下げ・据え置き69% 第2位 ガソリン・灯油などへの</div>

6. 暮らしへの支援とし ③賃金の引き上げ	300
して国や道に望むこと ④年金の引き上げ	380
⑤消費税の引き下げ	373
⑥消費税等を下げると影響が大きいので他の方法で考えてほしい	137
⑦高額所得者以外に給付対策をしてほしい	182
⑧外国人観光客のタックスフリー（消費税免除）を亡くしたほうが良い	156

補助制度の拡大61% 第3位年金の引き上げ38% 第4位消費税の引き下げ37%



○厚生労働省「2024（令和6年）国民生活基礎調査の概況」では、全体で58.9%、高齢者世帯では55.8%が生活が苦しいと感じており、65歳以上の無職夫婦世帯では、毎月約3万4000円の赤字が発生しているという。

今回の協会のアンケートでは、「家計への傷み具合」として限界を超えた方・限界の境界線にいる方が全体の約8割となり、家計の傷みをかなり感じている。

○長期にわたる値上げなどのため、これからの生活また、社会に不安を感じている方が98%もあり、その中でも非常に不安を感じている方が53%であった。

若い年代（20・30・40代）の暮らしを守るための工夫の回答では外食を控える・衣類の買い控えなど以外の項目にチェックが少なく、あまり物価高騰を気にしていないののだろうかと思えるような回答書であったり、家計にもう少し余裕があると答えている方々も生活・社会に非常に不安を感じるという項目に「チェックしていた方も見られた。苦小牧市民は、混沌とした不安の中で声を上げることもなく何に期待をし、じっと息を潜めて暮らしているのだろうか。

○暮らしを守るための工夫では、当然のことながら食品の買い控えがある

今回も節電・灯油の節約をする割合が上位にきている。

前回のアンケートでは、暖房費の節約のために真冬に日中は暖房をつけず、家の中で防寒着を着て過ごし、夜は、早々と寝床に入るという生活をされている方も多くいられたようですが、これから厳冬期に向かい特に高齢者等の身体が心配である。

また、外食を控えるが約50%近くあり、衣類の買い控え・旅行の控えもあり、飲食業者・衣料品業者・旅行業者などへの影響も心配される。

食品ロス削減に取り込んでいる消費者協会としては、34%の方が期限間近な商品に目を向けているので廃棄食品が少なくなるのではと期待している。